

## 「東北応援ツアー」岩手県コースの現地を訪問しての感想

今回、本ツアーに参加させて頂き誠に有難うございました。私は今年3月に宮城県山元地区のボランティア活動に参加させて頂き、その経験を交えながら、大きく分けて3つの感想を申し上げます。

1) 宮城県3地区（山元、名取、閑上）との違い。

2) 何故、今でも復興が大きく遅れているのか。

イ) 神戸、淡路大震災の復興の違い。

ロ) メディアによる報道の偏

3) 今後の行方。

1) 宮城県の上記3地区と三陸地域との地形的相違は大きく有り、前回のボランティア活動は京都から夜行バスで朝到着するなり、ゴム長靴を履いてスコップと一輪車で汗を流し翌日も似た作業で疲れましたが十分な満足感を得ることが出来ました。

一方三陸海岸は、リアス式海岸で景観もよく、湾内も狭い為か、比較的深い悲しみを受けることは有りませんでした。

(地域の方には申し分けありませんが)

そこで釜石は少々復興していて勢いも感じられ、ホットとした気持ちになりました。

しかし、宮城県はバスで行けども々々荒野が続き

その途中、途中で小学校の被災校舎が残されており、慰霊の碑が風に揺られていたのを思い出します。語り伝えの方の言葉を聞いて涙が出そうになったのを思い出します。

2) 神戸、淡路大震災の時、私は大阪の弁天埠頭にて大型フェリーを被災者向け仮設住宅に1ヶ月掛けて改造工事に携わったのを覚えています。神戸は大都市に近く、人材も、資材も豊かで、復興も早く神戸の街はまだ復興の最中でしたが、当時国鉄、私鉄、高速道路も不通で有り、被災者を迎えるに神戸三ノ宮埠頭へ海から入ったのを覚えています。街は3~4年位で復興を成し得たとおもいます。

又、今回の東北3県についての報道の偏向は相当感じられます。前回の山元地区の語りべの方も、全く地元を取り上げてもらえないと嘆いておられました。その偏り、復興も全くと言って良いほど手つかずの状態が原野が延々と続きます。(平野にも拘らず常磐線の一部区域が全く未着工)であり、廃線になるのではと危惧しております。

(なぜメディアは‘ドキュメンタリー報道も含めて‘上記3地区を取り上げないのでしょうか、私にはわかりません)

3) 私の友達が宮城県に一人います。彼とは今回も前回は電話で話をしたのですが、東北の人の神士の気質の高さにも何時も敬服しますが余りにも紳士的、武士道的な気風が災いして、公の方への進言が少なく、多くの方々が辛抱されているように思われます。震災後5年近くなるのに現地(三陸、宮城県等)のダンプカー、重機の数も余りにも少なく、現政権は東北復興が最重要課題とアドバルーンだけ立派に上げていますが、今やオリンピックの工事、円安志向が最優先であり、東北3県の復興は置き去りにされています。

今、私の住んでいる京都南部も全く急ぐ必要の無い道路建設、河川改修等で、ダンプカー、重機は被災地との密度比較すれば、あまりにも多く感じられます。もっと東北地方に何故、力を入れないのか不思議に思います。

余談ですが、明治新政府が薩長により達成され、その時から「白河以北は一山何ぼ(百文)」と云っていた言葉が未だに続いているかのようにおもいます。東北人の無念さも“花は咲く”と“花は咲けども”の歌詞のごとく私の胸に響きまします。戦後の復興は東北からの集団就職の青年の方々が頑張ってくれた賜物で有り、もっとメディアも政治家も平等に扱って欲しいと思います。

最後に一言

私は高校も立命卒で、我々60～70歳代は末川先生の精神を今だに受け継いでおります。

立命館大学の「赤き血潮胸に満ちて……」又は「夕月淡く花白く……」の独立の精神は大分薄らいで、わだつみの像もなくなり、一般の私立大学と変わらない様な雰囲気になっている様に思われます。私は今だに現役で、今青年で老骨にムチ打って頑張っております。時代感覚が古いのでしょうか、しかし今、大切な事は、東北復興と同じくそれを支える技術のイノベーションの発展であり、公の前例主義を廃してもっと民間の力を推進しようではありませんか。以上、有難う御座いました。

昭和40年卒 理工学部 機械卒 富田 佳孝